

令和4年度
社会福祉法人 永平寺町社会福祉協議会
事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日



<総括>

令和4年度も新型コロナ感染が収束しない中でのスタートであったが、「お互いさまのまちづくり」のスローガンのもと、実現に向けて事業推進に取り組んできた。

しかし、長く続くコロナ禍の状況により事業推進への影響は大きく、第7波や第8波をはじめとするコロナ感染の影響などによる介護保険事業、特に通所事業所においては、一定期間休業せざるを得ない状況になるなど大きなダメージを受けた。

そのような中で、各部門が事業計画や重点目標を掲げながら取り組み、法人全体では支出を抑えながら業務にあたるものの、収入が思うように伸びておらず、決算においても厳しい結果となっている。今年度は昨年度から続く厳しい経営状況の中、経費削減プロジェクト、収入改善プロジェクトなどを中心に経営改善に向けて職員全体で取り組んできた。

収入については大幅増といった成果はでていないが、利用者の確保やサービスの向上などを目的に事業所のパンフレット作成や特色等のPR、職員の質の向上を図る取り組み、個別性を重視した質の高いサービス提供など、職員が複数のプロジェクトチームを編成して現状を点検し、取り入れながら取り組んできたことは、今後の収入増加に向けてのきっかけづくりとして、一定の成果はあったと考える。

経費の削減の取り組みにおいては、超過勤務手当の削減や事務の効率化、リース物件の見直し等などを積極的に行い、削減も成果としてでている。

一方、財政面での立て直しを図るべく、下半期においては福祉基金の取り崩しを行い、令和5年度からの小規模多機能型居宅介護事業所「ほっこり」の休止、上志比デイサービスセンター運営の見直し、雇用形態の見直しといった大きな決断を行ってきた。

今後は、安定した収支バランスをとっていくための取り組みの継続とともに、法人全体でよりいっそう危機感を持って取り組んでいかなければならない。特に介護保険サービスの運営については、より品質の向上を図るとともに安定した経営ができるかどうかも併せて見極めながら運営にあたっていきたい。

令和5年度は、スクラップ&ビルドを強く意識し、必要性和事業の効率化も見極めながらニーズや現状に即しない事業の洗い出しや精査、採算性を見直しなどを行い、法人全体としては少しずつ事業のスリム化を図り、将来への財政基盤の安定化と強化に向けて、社協の目指す方向性と改革案を示した具体的目標を明確にし、危機感を持って引き続き取り組んでいく。そして、本来の社会福祉法人の使命である公益活動の実践を通じて地域や行政、関係機関との連携強化を図り、掲げた目標の達成と社協らしい地域に根差した地域福祉の推進を目指していきたい。

法人運営事業

1. 法人運営事業

1) 評議員会の開催

回	開催日	内容	出席者
1	R4/6/27	令和3年度事業報告ならびに決算の承認について	評議員14名中12名、 監事1名、正副会長
2	10/31	小規模多機能型居宅介護事業所「ほっこり」の休止について 福祉基金の取り崩しについて 理事の選任について	評議員14名中14名 正副会長
3	11/29	令和4年度第1次補正予算について	評議員14名中14名 正副会長

4	R5/3/24	令和4年度第2次補正予算について 令和5年度事業計画ならびに資金収支当初予算について	評議員14名中11名 正副会長
---	---------	---	--------------------

2) 理事会の開催

回	開催日	内容	出席者
1	R4/6/10	令和3年度事業報告ならびに決算の承認について 就業規則の一部改正について 障害者総合支援法に基づくえいへいじ訪問介護ステーション運営規程の一部改正について デイサービスセンター運営規程の一部改正について 評議員選任・解任委員会の開催について 定時評議員会の開催について	理事13名中11名、 監事2名
2	10/26	小規模多機能型居宅介護事業「ほっこり」の休止申請 福祉基金の取崩しについて 就業規則の一部改正について 給与規定の一部改正について デイサービスセンター運営規定の一部改正について えいへいじ介護保険対象外訪問介護ステーション運営規定の一部改正について 令和4年度第2回評議員会の開催について	理事13名中11名 監事2名 欠員1名
3	11/17	令和4年度第1次補正予算について 第3回評議員会の開催について	理事13名中12名 監事2名中1名
4	R5/1/12	理事選任候補者の推薦について(書面決議) 評議員選任候補者の推薦について(書面決議)	理事12名全員の同意 監事2名全員の確認
5	3/10	令和4年度第2次補正予算について 令和5年度事業計画ならびに資金収支当初予算の承認について 役員賠償責任保険契約の内容の承認について 社会福祉法人 永平寺町社会福祉協議会令和4年度第4回評議員会の開催について	理事13名中12名 監事2名

3) 評議員選任・解任委員会の開催

回	開催日	出席者
1	R4/6/10	評議員選任・解任委員会委員3名
2	R5/1/31	評議員選任・解任委員会委員3名

4) 部会・委員会の開催

回	開催日	部会名	内容	出席
1	R4/10/11	地域福祉部会	財務状況報告および今後の方向性について	部会委員5名
1	10/12	在宅福祉部会		部会委員5名
1	10/13	法人運営部会		部会委員5名
1	R5/2/28	予算委員会	令和5年度事業計画ならびに予算の審議について	理事 5名 監事 1名

5) 監査の実施

【令和3年度決算監査】

回	開催日	出席者
1	5月27日	監事2名、正副会長、常務理事

【令和4年度中間監査】

回	開催日	出席者
1	11月9日	監事2名、正副会長、常務理事

【内部会計監査】

・税理士による定期的な会計指導・内部監査の実施継続。

開催日	出席者
R4/4/25・5/25・6/27・7/26・8/29・9/27・10/25・11/24・12/26・R5/1/23・2/24・3/24	税理士法人 MMC 2名、会計職員2名

6) 経営基盤の強化

①経営改善プロジェクトの推進

令和3年度の決算期における、財務状況の悪化から法人経営の立て直しを図るべく、職員を中心に経営改善プロジェクトを発足。収入改善プロジェクト、経費削減プロジェクトとしてそれぞれ役割分担を行い、収支改善に取り組んできた。結果として、ある程度の経費削減に成功しているが、依然厳しい状況であることに変わりなく、更なる対策として、上志比デイサービスセンターの運営形態の変更、小規模多機能型居宅介護事業所「ほっこり」の休止、職員の雇用契約の見直しを実施。令和5年度に向けて対策をさらに強化していく。

【収入安定化に向けた重点実施事項】

- ・町内外の居宅介護支援事業所への定期訪問を強化。
- ・各事業所の紹介や、定期新聞、イベント情報など各事業所の特徴を生かした PR チラシの作成・配布。
- ・ホームページ、FaceBook 等の活用。事業所の紹介動画等の掲載。
- ・接遇改善「目元で笑顔を伝える」運動。
- ・見学会、体験利用での口コミ収集とWeb上への掲載により、利用促進に繋げる。
- ・デイサービスの食費値上げの検討。

【経費削減に向けた重点実施事項】 削減実績 約 2,200,000 円

- ・時間外手当の削減
- ・非常勤職員の雇用形態の見直し
- ・広報費の削減
- ・リース資産の見直し
- ・漏水改善による水道光熱費削減

②職員相互による内部研修の実施

令和4年度は、新型コロナウイルス感染予防の目的もあり、外部研修よりも内部での職員研修を重視し、職員の品質向上に努めた。

実施日	対象	内容	参加者
R4.5	新採用職員研修	待遇および社会福祉協議会の業務を知る	6名
R4.6	職員（2年目まで）	各事業所の専門知識獲得研修	3名
R5.5	職員（3年目まで）	社会福祉協議会の目的と変遷	12名

③その他

・社協内ネットワーク通信を有効活用し、各種研修案内や情報共有などの周知徹底に努めた。

7) メンタルヘルス対策事業

・平成28年7月より労働安全衛生法に基づき、常時50名を超える事業所である永平寺事務所において産業医との契約し、衛生委員会の設置をするなどメンタルヘルス対策に取り組んだ。

【衛生委員会】 毎月第2火曜日 14:00～15:00の1時間（永平寺事務所）

回	開催日	出席者	内容
1	R4/5/10	産業医 1名 事務局職員 3名	今期衛生管理計画 事業所巡回チェック実施について
2	6/14	産業医 1名 事務局職員 4名	事業所巡回チェック結果について 感染症の予防及び蔓延の防止のための対策を検討する委員会について ストレスチェック 永平寺事務所職員個別面談について
3	7/12	産業医 1名 事務局職員 4名	事業所巡回チェック結果 対応フローチャートの見直しについて
4	8/9	産業医 1名 事務局職員 5名	相談
5	9/13	産業医 1名 事務局職員 5名	ストレスチェック結果報告 抗原検査キットの取り扱いについて
6	10/11	未開催（面談のみ）	
7	11/8	産業医 1名 事務局職員 4名	感染症対策委員会
8	R5/2/14	産業医 1名 事務局職員 4名	新型コロナ・インフル等の基本方針の見直し検討
9	3/14	産業医 1名 事務局職員 3名	マスク着用について 今期計画振り返り・次期計画について

・事業所における感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会の発足。運営基準の変更に伴い、当会における「感染症対策のための指針」を提示。感染症対策委員会は安全衛生委員会を充当させ、3ヶ月に1回の定期開催とする。（初回：7/12）

- ・心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）の実施。

ストレスチェック検査 実施日 令和4年7月

永平寺事務所・・・受験者59名

上志比、松岡事務所・・・受験者82名

8) 社協会費及び賛助会費の加入促進

貴重な自主財源である会費納入依頼や会費使途について、区長会、広報誌等を通し説明を行った。今年度は9月に募集を行い、加入促進に努めた。また、賛助会費については、今年度もコロナ禍での社会情勢などを勘案して見送った。

【各会費の推移表】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
普通会費	2,398,500円	2,501,760円	2,393,000円
特別会費	45,000円	10,000円	0円

普通会費については、昨年比で-108,760円の減収となっている。納入率は、87.4% (R3は、96.8%)と前年度より減少している。今後も引き続き、町民の皆さまに会費の必要性についてご理解が得られるよう、当会事業の活動報告を踏まえ、積極的にPRしていく。

9) 社会福祉大会の開催

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から中止としたが、表彰対象者には、個別に表彰を実施した。

- ・永平寺町社会福祉協議会会長表彰 18名
- ・永平寺町社会福祉協議会感謝状授与者 5名

【表彰選考委員会】

開催日	出席者
R5/2/17	表彰選考委員6名、事務局職員3名

10) 障がい者の雇用促進

- ・「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき3名を継続雇用中

11) 仕事と生活の調和

- ・職員の家庭生活状況に配慮した多様な制度利用を周知・勧奨しワークライフバランスの調和を図った。
- ・有給休暇取得率 61% (一人あたりの取得日数12日) 昨年比+2日
- ・介護休暇取得 3名 (女性 3名)
- ・子の看護休暇取得 2名 (男性 1名 女性 1名)

1 2) 災害時における各種関係機関との協力体制の確立

【町新型コロナウイルス感染症対策会議】

開催数	出席者	備考
計6回	事務局長	新型コロナウイルス対策による招集

【町災害対策室会議】

開催日	出席者	備考
8/9	事務局長	豪雨災害対策に関すること
9/19	事務局次長	〃

2. 永平寺事務所運営事業

永平寺地区の総合相談窓口として、相談業務及び連絡調整にあたってきた。

3. 企画調整事業

1) 苦情解決体制の整備

【苦情受付解決状況】(苦情受付件数2件；前年度比+2件)

No.	苦情の種類・内容	発生日	解決状況
1	配食サービスに関すること(松岡事務所) 【内容】配食業者による配達時間の改善要望	4/8	解決済み
2	ヘルパーのケアに関すること(ヘルパー事業所) 【内容】買い物代行でのケアの内容に関する改善要望	5/18	解決済み
3	通所サービスの利用に関すること(通所介護事業所) 【内容】事業所の新型コロナ感染症発生時の職員対応に関する改善要望	8/2	解決済み
4	契約締結に関すること(本所) 【内容】覚書の締結時期が不適切であったことに関する改善要望	9/6	解決済み

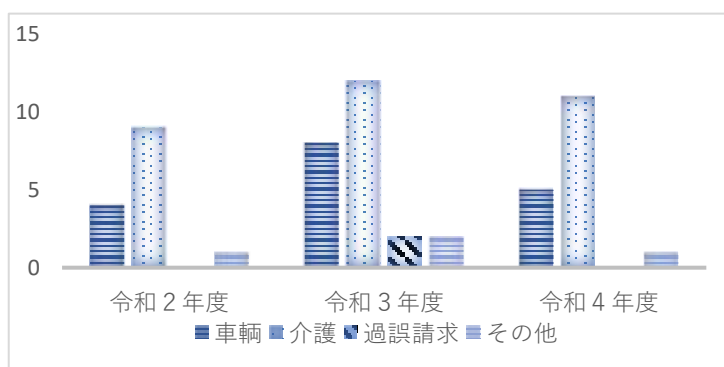
今年度は4件(前年度比+2件)で内容としては、職員の対応によるものが多い。前年度と比較しても増加に転じているため、接遇研修、マナー研修、組織内での対応基準の明確化等、統一したサービスを提供していく。

2) リスクマネジメント体制の整備

①事故発生件数17件(前年度比；-7件)

内 容	件 数
車両事故(前進時3、後退時0、停車時1)	5件(前年度8件)
介護事故(送迎時2、施設内8、誤薬1)	11件(前年度12件)
過誤請求等	0件(前年度2件)
その他の事故(車両管理)	1件(前年度2件)
合 計	17件(前年度24件)

②事故発生年度別推移



令和4年度は、事故の発生件数が前年度と比べて減少している。しかし、介護事故の発生件数は依然高い状態で推移しているため、事故発生に至る原因を検証し、局内での車両運行研修や介護研修を積極的に開催し、事故のリスクを最小限に抑えるよう努める。また事故・インシデント情報は職員間で情報共有を徹底し意識向上に努めていく。

③運転時のアルコールチェックの実施

業務中の交通事故防止と法令遵守を目的として、検査機器および目視にてアルコールチェックを実施。

3) コンピュータネットワークの運用

- ・勤怠システムの運用
タイムカードを廃止し、勤務時間や休暇取得の管理をデータ化することで、給与事務の効率化を図り、法に基づいた適正な勤怠管理に努めた。
- ・ひかりインターネット回線運用。
- ・デスクネッツ活用によりペーパーレスを図り、稟議の迅速化と費用節減。
- ・Wi-Fiシステムの活用
各事業所にWiFiシステムを導入することで、事業所にとらわれることなく仕事を行うことができ、業務効率の向上につながった。また、町民にフリーWi-Fiを提供し、町民がネットワークを活用できる環境づくりに努めた。
- ・ほのぼのNEXT等 定期アップデート作業。
- ・勤務シフト作成支援ソフトの運用
通所介護事業所の勤務シフト作成の自動化を図り、効率的な事業運営を推進。

4. 企画広報事業

1) 広報紙の発行（「ほほえみ」隔月発行；全戸配布）

福祉情報、社協事業情報をわかりやすく、かつタイムリーにお届けするため、課を越えた横断的な連携により、幅広い情報の提供に努めた。

2) フェイスブック・ツイッター（SNS）での情報発信

フェイスブックを活用し、さまざまな年齢層を対象に福祉情報、社協事業情報を発信した。（更新頻度…月1回程度）

3) 広報部会の開催

回	開催日	内容
4	4/11・6/10・8/5・9/7	広報誌記事について Facebook、Twitter について 動画の撮影について

4) ホームページの運用・改善

見やすく目的の情報をいち早く検索できる
ホームページを作成し、福祉情報発信に努めた。
また福祉サービスのイメージがしやすいよう動画等も
事業所ごとに作成し掲載した。



広報紙や SNS、ホームページ等を総合的に活用することで、幅広い年齢層の方に福祉情報をお届けすることが出来た。

5) 永平寺町文化祭に出演

10月29日と30日の両日、ふれあいセンターで開催された永平寺町文化祭に出演し、演劇を通じて永平寺町社会福祉協議会の事業内容をわかりやすく町民の皆さんに周知を行った。

5. 研修教育事業

社会福祉援助技術実習生等の受け入れ

①金城大学3回生 1名

回	開催日	内容等
1	R4/8/9~19 5日間	ソーシャルワーク実習

②福井県立大学2回生 8名

回	開催日	内容等
1	R4/9/20 1日間 (延期)	各事業所見学実習
1	R4/11/9 1日間	事業所見学実習

③福井県立大学3回生 2名

回	開催日	内容等
1	R4/9/28~11/2 23日間	ソーシャルワーク実習

④金城大学3回生 1名

回	開催日	内容等
1	R5/2/13~3/9 18日間	ソーシャルワーク実習

6. やすらぎの郷管理運営事業

町民の方々がサロンやイベント等に広く活用していただけるように、事務所の改装を行った。随時必要な改装や手続きを行っていく。

地域福祉活動事業

1. 地域福祉事業

1) 地域福祉活動計画の目標達成に向けた取り組み

R4年度は地域福祉活動計画の中間評価を実施した。

中間評価の指標となるアンケートが「気づき」につながるきっかけとなり、「気づき」こそが大切であることを改めて認識した。今後は社協は住民の皆さんの後方支援として、いつでも頼れる存在であり続けることが地域の活性化、そして更なる地域福祉の推進につながっていくものであると認識した。



2) 福祉委員活動の推進

①福祉委員活動報告書の活用

福祉委員とのやりとりの起点となる「活動報告書」の活用促進を図る。

インターネット（google フォーム）や福祉委員専用の公式LINEなど多様な連絡手段が浸透してきており、定期的な報告が少しずつ増えている。

地域の中に心配な方の情報などがある場合には、福祉委員と地区担当コーディネーターが連携させて頂くことも周知し、課題解決への支援につなげた。

< 活動報告書提出状況 >

松岡地区	183 件	前年度比 +51 件
永平寺地区	69 件	前年度比 +40 件
上志比地区	75 件	前年度比 -12 件
計	327 件	前年度比 +79 件

②地域の特性に合わせた内容の福祉委員研修会

福祉委員活動について考えるきっかけづくりの福祉委員研修会を3地区に分かれて開催した。各地区の地域の特性に合った内容で展開しながら、福祉委員相互でつながりや見識を深めた。

地区	開催日時	会場	出席者(出席率)	内容
松岡	11/26	松岡公民館	18名/63名中 (出席率 28.6%)	1) 福祉委員の役割や活動について 2) 見守り活動のススメ ～地域の高齢者とお話ししてみよう～
永平寺	11/30	永平寺開発センター	22名/37名中 (出席率 59.4%)	1) 福祉委員の役割や活動について 2) お宝発掘！支え合いの未来地図を描こう ～地域の魅力をみんなで探そう～
上志比	11/16	永平寺町やすらぎの郷	22名/31名中 (出席率 70.9%)	1) 福祉委員の役割や活動について 2) 『上志比地区ひまわりサポートの会(ボランティア)』の取り組み紹介

③福祉委員だよりの発行



←コロナ禍で対面でのコミュニケーションが難しい中、タイムリーな内容記載のおたよりを作成配布して活動意欲の維持向上を図る。

当課からのメッセージ発信の他、実際の福祉委員活動事例も紹介。伝わりやすいよう、マンガ仕立てで表現するなどの工夫も盛り込む。

3) 地域支え合い活動の推進

① ワンストップサービスの推進強化

各事務所単位の一ストップサービス、早期解決に向けた相談に応じた。

相談・コーディネート件数

松岡地区	296 件	前年度比 +200 件
永平寺地区	275 件	前年度比 +169 件
上志比地区	188 件	前年度比 +72 件
計	759 件	前年度比 +441 件

② 小地域福祉活動の推進

・活動助成金の状況

町民自らが地域の福祉（生活）課題に気づき、その解決に向けた取り組みができるよう、話し合いや活動の場を設けるなどして、町民と協働して地域福祉を推進する。小地域福祉委員会を設置する自治会に対して、活動助成金を交付。

小地域福祉委員会活動助成事業（交付額 388,500 円 前年度比+13,500 円）

松岡地区	11 件	前年度比 +1 件
永平寺地区	10 件	前年度比 -2 件
上志比地区	7 件	前年度比 -1 件
計	28 件	前年度比 -2 件

・小地域福祉活動実践活動報告会の開催

開催日時：R5 年 2 月 21 日（火）19:00～20:00 参加者数：27 地区 29 名

会場：永平寺町開発センター 2 階 消防ホール

内容：事務局説明 「小地域福祉委員会活動のいろは」

③生活支援体制整備事業（地域包括支援センター所管）との連携した取り組み

生活支援コーディネーターと連携・協力して、生活支援体制整備事業（地域包括支援センター所管事業）の充実を図る。

【松岡地区】

福井県シニアチャレンジ応援事業助成金を活用し、令和4年9月に吉野公民館（ごおう荘）にて健康マージャン会を設立。男性はなかなか集まらないという課題に対して、住民主体によって吉野地区に新たな交流の場を設置するに至った。

現在会員は21名。毎月第1、3木曜日に開催。毎回10人前後の会員が集まり、話や交流をしながら活動している。

【永平寺地区】

生活支援コーディネーターと連携し、志比北地区地域支え合い座談会を開催。以前行った志比北地区支え合いアンケートや、座談会コアメンバーとの意見交換等を踏まえ、今年度も区民ニーズの聞き取りを行い、既にある交流の場を活性化、継続化させるための様々な働きかけや提案を行った。

【上志比地区】

生活支援コーディネーターと連携し、『上志比地区ひまわりサポートの会』の活動支援を継続。買い物サポートや見守り支援などの活動支援、広報啓発支援、自己研鑽（勉強会開催）支援を行う。

2. ボランティアセンター活動事業

『コロナ禍でもつながりを絶やささない』をテーマに、「活動の見える広報啓発」「思いやりの心を育む福祉（防災）教育」「みんなができるちょボラ活動の推進」を重点目標として、各種事業の展開を図った。

1) ボランティアセンター運営委員会の運営

◆運営委員会の開催（3回/年）・

回	日時	参加者	内容
第1回	R4/5/20	12名	委嘱状の交付、自己紹介 委員長ならびに副委員長の選出 令和4年度 事業計画（案）について 令和4年度 登録ボランティアについて
第2回	9/26	9名	ボランティアセンター活動事業の中間報告について エコ川柳コンクールの審査について 福井県立大学祭への参加について
第3回	R5/3/9	11名	令和4年度 事業報告について 令和5年度 事業計画（案）について 令和5年度福祉教育サポーター養成講座～応用編～（案）について

2) ボランティア活動に関する相談・登録・コーディネート

	令和3年度	令和4年度
登録個人数	28名	44名
登録団体数	36団体（577名）	31団体（515名）
相談件数	154件	222件
コーディネート成立件数	135件	196件

・主な相談の内容および内訳

【ボランティアしたい】⇒「年末にできるボランティア（地域住民との交流）はないか」「自作品を町内施設等に活用してほしい」等（31件）

【ボランティアほしい】⇒「サロンで楽しい催し物ができるボランティアさんはいないか」
「地域に髪を切ってほしい人がいる」「除雪してほしい」等 (60件)

・福祉施設ボランティア受け入れ担当者連絡会議

開催日：6月6日（月）参加者数：10名

目的：コロナ禍で福祉施設におけるボランティアの受け入れが大変厳しい状況の中、町内各福祉施設とボランティア受け入れに関しての現状や課題等について情報交換を行いコーディネート業務の向上を図る。

・ボランティア活動者交流会

開催日：10月28日（金）参加者数：12名

内容：災害ボランティア活動報告会や、情報交換会、ギター演奏による合唱会を設けるなど、あらゆる形で相互コミュニケーションを図っていく。

・ボランティア体験2022（県ボランティアセンター主催）のコーディネート

3) ボランティア活動に関する広報啓発、情報提供

<各種媒体を活用した広報啓発、情報提供活動>

・社協広報誌ほほえみ（隔月）

・社協 Facebook ※計43投稿

町内小学校における福祉教育活動、各サロンで活躍するボランティア紹介、収集ボランティア活動（エコキャップ・プルタブ）の搬入量報告、ボランティア講座の開催案内、新しい取り組みの紹介（県大への広報ポスター掲示など）、ボランティア体験2022&ボランティア月間の周知 など

・社協 Twitter

ボランティアの活躍紹介など

・ボランティアセンター公式 LINE ※令和4年度新規開設

VC公式LINE立ち上げチラシ等を作成・活用して周知。チャット形式での相談対応&情報提供などの機能を担う。

・ボランティアセンターホームページリニューアル

令和5年1月23日より新ホームページへ移行

過程：旧ホームページは、トップページの項目メニューの重複や各タブの図・写真の少なさ等による見にくさ・使いづらさがあり、リニューアルを検討した。

構成内容：「ボランティアセンターとは?」「ボランティアをしたい・ほしい」「ボランティア保険」「講習会・イベント」「お問合せ・アクセス」の5種類のメインタブを設け、最も閲覧が予想される項目メニューをトップページ上部に常時表示。活動写真をスライドショー形式で表示。トップページ中程に「LINE友だち登録のお知らせ」「ボランティア情報」「収集ボランティア活動」等を配置。



- ・ボランティアセンターin 白檜祭（福井県立大学祭）
開催日：10月8日（土） 会場：福井県立大学 永平寺キャンパス敷地内
内容：ボランティア相談・登録コーナーや食料支援コーナー、手話体験コーナー、情報展示コーナー等を設置し、ブースへの立ち寄り呼びかけ。ボランティアに関する情報を得たり、体験活動への参加を促す。
- ・各種助成金の情報提供
- ・社協広報誌ほほえみ点訳業務委託（点訳サークル松岡サンライトと契約）
点訳サークル「松岡サンライト」へ点訳版社協広報誌ほほえみ作成業務を委託。

4) ボランティア講座、研修会の開催

- ・講座名：福祉教育サポーター養成講座
開催日：4月22日（金）参加者数：10名
対象者：福祉教育に関心のある方で、受講後に町内各小学校において福祉（防災）教育を行う際に「福祉教育サポーター」として活動することが可能な方
内容：町内における福祉教育の現状説明や「車いす体験」「アイマスク体験」「高齢者疑似体験」
- ・講座名：親子ボランティア（ちょボラ活動）講座
開催期間：夏休み期間 参加者数：45名
対象者：松岡児童クラブ利用児童および保護者
協力：松岡児童クラブ、永平寺町子育て支援課
内容：絵を描いたり、切った紙を貼り合わせて絵を作ったりして、それぞれ参加希望者にオリジナルの赤い羽根共同募金箱を各家庭で作っていただく。完成した募金箱は、町内の募金箱設置協力店にて有効活用した。
- ・講座名：シニア向けボランティア講座①（絵手紙編）9月29日（金）参加者数：16名
- ・講座名：シニア向けボランティア講座②（折り紙編）10月14日（金）参加者数：6名
- ・講座名：教職員向け福祉教育講座
開催日：1月6日（金）参加者数：約80名（町内小中学校の教職員）
開催形式：Zoomを活用したオンライン形式
講師：牧野郁子氏（埼玉県鶴ヶ島市社会福祉協議会）、職員1名
内容：地域をフィールドとした福祉教育を実践していくために、『御陵きらきら探検隊』の活動や講義を交えながら、これからの福祉教育についてみんなで理解を深めていく。なお、各学校へ当日の内容を記録したDVDの配布済
- ・講座名：ボランティアリーダー研修会
開催日：2月17日（金）参加者数：計49名（地域ふれあいサロン代表者）
会場：永平寺開発センター 大ホール
目的：サロン運営やボランティア活動についての取り組みや意見を交わしながら交流を深め、意欲向上につなげる。
講師：福井県レクリエーション協会 辻岡世紀子氏
内容：参加者みんなのできるレクリエーションについての配慮や技術を学ぶ

5) 福祉教育・学習の推進

◆町内全小学校4年生を対象に、「防災（避難所での要支援者への支援について）」をテーマとした福祉（防災）教育を実施した。



大きな災害により学校が避難所となった時、車いすの人に対してどうしたらよいのか？お手伝いすることはできないか？など車いすを体験して初めていろいろ考えることができるきっかけを作る体験プログラムを設定。

実施日	実施校	生徒数	協力者
6/2	上志比小学校	19名	社協職員5名、サポーター2名
6/17	志比小学校	16名	社協職員4名、サポーター3名
7/14	志比北小学校	6名	社協職員4名、サポーター2名
10/7	松岡小学校	55名	社協職員9名、サポーター9名、当事者2名
10/26	御陵小学校	20名	社協職員4名、サポーター3名
11/1	志比南小学校	14名	社協職員4名、サポーター3名
11/17	吉野小学校	9名	社協職員3名、サポーター2名、当事者1名

・小中学校や地域での福祉教育、学習の支援

実施日	実施校	生徒数	内容	講師
R4/5/31	志比南小学校	14名	認知症サポーター養成講座	地域包括支援センター
R5/3/1	御陵小学校	17名	車いすバスケットボール	しあわせ福井スポーツ協会 古崎倫太郎氏(あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)

6) 積雪時における除雪ボランティア体制の整備

・スノーバスターズ始動オリエンテーション

開催日：11月29日(火)

会場：永平寺開発センター 消防ホール 参加者数：45名

目的：除雪ボランティアについてのオリエンテーション

スノーバスターズとして活動するための一体感の向上アップを図る。

・スノーバスターズの活動調整

スノーバスターズ登録者数：65名（個人ボランティア：14名、団体ボランティア：1団体）

除雪相談受付件数：24件 マッチング成立件数：21件

7) ちょボラ活動（収集ボランティア活動等）の促進

<エコキャップやプルタブの回収活動、チラシで作るゴミ箱作成等の促進を図る>

- ・エコキャップ回収量：900kg（ポリオワクチン：450人分）
- ・プルタブ回収量：95.5k 換金額：5,310円（福井県南越前町他へ寄附）
- ・チラシで作るゴミ箱作成推進活動（えい坊チャンネルも活用）

<エコキャップ、プルタブ回収 BOX 設置場所の新規開拓>

- ・エイトシステム株式会社・北陸電力株式会社フレア体育館
- ・エコ川柳コンクール

応募期間：夏休み期間

目的：中学生を対象としたエコ川柳作品を募集し、エコキャップやプルタブ収集への理解や関心を深めていただく取組をした。

テーマ：「今わたしたちができるエコキャップ・プルタブ収集」 参加者数：122名

8) ボランティア活動保険の加入窓口

- ・ボランティアセンター登録者の活動保険料（350円）を助成

	令和3年度末	令和4年度末	保険料額
登録個人保険加入数	28名	45名	182,350円 (社協より助成)
登録団体保険加入数	33団体(557名)	30団体(477名)	
保険のみ加入数	23団体(367名)	26団体(389名)	自費加入

3. 地域ふれあいサロン事業

主に高齢者の身近なところでの集いの場づくりを目的に、自治会内のセンター等において、ボランティアや福祉委員、民生委員児童委員等の協力のもと、レクリエーションや健康体操を行い、健康維持（介護予防）と社会参加（閉じこもり防止）に向けた支援を行った。

1) 地域ふれあいサロン助成金の状況 2,951,400円（前年度比：+397,613円）

地区	地区数	R4年度 開催回数	R3年度 開催回数	R4年度 延人数	R3年度 延人数
松岡地区	25ヶ所	434回	473回	5,328人	6,600人
永平寺地区	16ヶ所	169回	123回	2,473人	1,735人
上志比地区	15ヶ所	101回	58回	1,581人	1,031人
計	56ヶ所	704回	654回	9,382人	9,366人

2) サロン代表者会議

No.	開催日時	会場	出席者
1	4/25 14:00～15:30	永平寺老人福祉センター	17名
2	4/26 14:00～15:30	グループホームはないろ	24名

コロナ禍で約3年ぶりのサロン代表者交流会を開催することができ、コロナ禍でのサロン活動や取り組みなど、活発な意見交換の場となった。

3) サロン通信の発行



←コロナ禍で対面でのコミュニケーションが難しい中、タイムリーな内容を記載したおたよりを配布して活動意欲の維持向上を図る。

熱中症予防への注意喚起の他、実際のサロン活動事例等を写真やイラストを中心として伝わりやすく

4) 活動の休止や縮小しているサロンへの介入、新規立ち上げの支援

【サロン設置地区】 56ヶ所 (昨年度比 +2ヶ所)

令和4年度もコロナの感染拡大の影響でサロン自粛を余儀なくされた年となった。サロン助成金を申請しなかったサロンもあり、長引く長期休止で担い手不足や代表者の高齢化、活動意欲の低下もみられたが、代表者交代により年齢層が若くなった地区もあり、サロン活動の必要性が伝授されている。



4. 物品貸出事業

介護機器(車いす)や車輛、地域での福祉活動の支援や福祉の啓蒙啓発の目的での一般備品を無料で貸出した。※永平寺町行政チャンネルで、新しい物品貸出の情報発信を行った。

<物品貸出実績>

福祉車両(3台)	80件	前年度比	-23件
物品	230件	前年度比	+109件
除雪機	0件	前年度比	±0件
計	310件	前年度比	+86件

物品: 視聴覚機器105件、レクリエーション45件、車いす78件、飛沫防止パネル2件

5. 団体事務事業

住民団体の円滑な運営を補佐し、住民活動の促進を図る

- 永平寺町遺族連合会
 - 決算監査、役員会 4/8
 - 総代会 新型コロナ感染症予防のため書面報告
 - 福井県戦没者追悼式 8/23
- 永平寺町英霊顕彰奉賛会
- 福井県共同募金会永平寺町共同募金委員会
 - 令和4年度共同募金助成交付 5/10~12の3日間 感染症対策個別交付
 - 令和3年度共同募金会決算監査 5/27
 - 令和4年度赤い羽根共同募金運動 10/1~R5/3/31

6. 子ども見守り強化事業

永平寺町子ども見守り宅食支援事業

地域の関係機関やボランティア等と協働を図りながら「宅食」と「学習支援」2つの取り組みを展開して、子どもの見守り体制の強化を図る。

1) 宅食

月1回、永平寺・上志比地区を中心に、対象となる町内のひとり親家庭の児童等の家庭を訪問し、弁当等の提供を行った。ひとり親家庭の児童等との関係性を深めながら、見守り体制の強化を図り、悩みや心配ごとに対する早期発見・予防対応に努めた。

- 実施回数 : 12回
- 延べ利用者数 : 257名 (前年度比 +14名)
- 延べ利用世帯数 : 175世帯 (前年度比 +26世帯)

2) 学習支援

長期休暇中（夏休み等）の宿題や苦手科目の克服、学期末の復習をするため、拠点型の学習支援を実施。また、宿題が少ない期間は体験型の学習を実施。違う学校の子どもとの出会い、仲間づくりの場も図る。学習支援を通して、職員はもとより、学生ボランティアや様々な関係機関の協力を得ながら、大人と子ども、相互の信頼関係に基づく安心安全な居場所づくりを図る。同じ町内にて学習支援を実施している「学生団体 together」「NPO 法人かさじぞう」と連携を図り、合同のチラシを制作して、町内小学校の協力も得て参加を呼びかける。

- ・夏休み学習支援：急遽中止（新型コロナ感染拡大の為）
- ・冬休み学習支援：12/23、12/26、12/27、12/28（4日間）
会場：永平寺開発センター消防ホール 延べ参加者数：31名
- ・春休み学習支援：3/27（1日間）
会場：永平寺開発センター消防ホール 参加者数：11名

7. 一般配分金事業・地域福祉事業

1) 障がい児とひとり親家庭の親子の社会参加事業

永平寺町内在住の幼稚園～中学校の障がい児のお子さんとその親御さん、ひとり親家庭の親子等を対象に11月6日(日)貸し切り映画上映会を緑の森ふれあいセンターにて実施。

2) 障がい児者の社会参加と保護者の親のリフレッシュ事業（重症心身障がい児者）

10月15日(土) 重度心身障がい児者福祉サービス事業所「はあもにい」にて、障がい児と保護者のリフレッシュ（気分転換）を図ることを目的とし、施設内にて石川行きのオンライン旅行、プラネタリウム、保護者向けのハンドマッサージを実施した。

3) コロナ禍でもつながりを絶やさない見守り訪問事業

新型コロナウイルス感染拡大にて影響を受けている高齢者、障がい者、ひとり親家庭等に対してつながりを持ち続け、食料等の支援を行う。

地域ふれあいサロンを中心に、コロナの影響で集合型サロンの開催ができない場合に安否確認を行うなどの見守り活動にかかる経費を助成するための助成金として創設し、17ヶ所サロンが安否確認などの活動を実施した。（交付助成額 117,857円）

松岡地区4ヶ所 永平寺地区7ヶ所 上志比地区6ヶ所

また、12月にコロナ特例貸付者や福祉サービス利用料負担軽減事業対象者、社協で把握している困窮者等に米5kgや食料品等を（25世帯）に配布した。

4) 福祉活動応援キャンペーン事業（県共同募金会新規申請）

福祉委員、民生委員児童委員と連携協働し、80歳以上の老々世帯(153世帯)の見守り訪問にて実態把握を行った。



- 5) 生活困窮者への食糧支援事業（学生）
10月8日(土)福井県立大学 白檜祭のボランティアセンターのブースにて100食の食糧を配布した。
- 6) 令和4年度ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業（全国社協より助成）
夏休み期間中に、町内の飲食店と連携して夏休み子ども食堂を実施し、延べ237人の親子の方がテイクアウトや会食を行った。都合により参加できなかった35人(26世帯)には後日、食料等を持参し見守り訪問を行った。
- 7) 地域の孤独をなくすため見守る人を育てる事業（県共同募金会に新規申請）
地域での孤独に気づき、つながり、見守る人材養成及び実践活動として福祉委員研修及びサロン代表者会議等を開催し、見守り活動に係る費用を計上した。

8. 歳末配分金事業

- 1) ひとり暮らし高齢者への歳末おせち事業
80歳以上のひとり暮らし高齢者世帯の方やその他民生委員が特に必要と判断した高齢者世帯へ、おせち料理の配布
配布期間 12月28日、29日 対象者 225名（前年度比：+27名）
- 2) 障害児者福祉施設への激励訪問事業
当会出身者が入所している障がい児者福祉施設を訪問。
実施期間：R4年10、11月 訪問事業所：13事業所
対象者 30名（前年度比：-1名）
※コロナ感染予防のため社協職員と民生員各地区2名のみで実施。

- 3) 広報誌の発行事業

9. 災害配分金事業

火災等の災害に対して臨時に援助。(火事見舞金：1軒)

福祉サービス利用支援事業

1. 福祉総合相談事業

- 1) 弁護士による無料法律相談所開設
・各地区持ち回りで毎月開催。(本所・永平寺事務所では電話相談での対応可能)

開催回数	12回(前年度比：±0回)
相談者	50名(前年度比：+13名) (うち電話相談1名)

当会広報誌、ケーブルテレビやSNSでの情報発信、ポスター掲示、広報活動継続。令和4年度は、名刺型でのお知らせ配布や金融機関での無料法律相談予定表を掲示依頼し、相談者増につながっている。

2) 講座（セミナー）の開催

- ・ケーブルテレビでの配信型にて12月1日より1ヶ月間放映。

テーマ「地域におけるヤングケアラーについて」

講師 福井県立大学 看護福祉学部 社会福祉学科 牛場 裕治 氏

視聴後のアンケートも画面でのQRコード読み取りによる提出も可能となり、若い方々からの返信があった。

2. 日常生活自立支援事業

永平寺町民の方を対象に、判断能力等に不安がある高齢者や障がいのある方が自立した日常生活を送れるよう、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理、書類等預かりなどを中心とした生活支援を行う。

新規の利用者数は増加傾向にある。生活状況が複雑化する中において、今後も需要は大きい事業と捉えている。他事業所からの依頼で利用に至ったケースもあり、改めて地域内での助けあいの重要性を再認識することができた。

- ・利用者数：18人 前年度比（+6人）
（認知症高齢者13人、知的障害者1人 精神障がい者4人）
- ・生活支援員：5人（前年度比 ±0人）
- ・新規契約締結件数：6件（前年度比：+3件）
- ・契約終了件数：1件（他市へ転居のため）

日常生活自立支援事業 相談件数内訳（経路・内容別）

認知症高齢者等	257件	前年度比 -13
知的障害者等	7件	前年度比 -21
精神障がい者等	84件	前年度比 +23
計	348件	前年度比 -11

3. 小口資金貸付事業

緊急小口福祉資金貸付事業（社協事業）

- ・一時的な生活困窮に陥った人を対象に緊急的に資金貸付

貸付件数	残高
1件(前年度比：3件)	30,000円(前年度比：±0円)

- ・フードバンク食品配布新型コロナウイルスの影響に伴い、県民生協様をはじめ町民の皆様から多くの食品の提供を受け、緊急を要する生活に困っている世帯に食糧を提供した。
(配布した食品数 290品) 33名

4. 生活福祉資金貸付事業

貸付（本則）申請状況

貸付資金種類	件数（前年度比）	決定金額
福祉費	1件（前年度比：-1件）	100,000円（-250,000円）

特例貸付：緊急小口資金」「総合支援資金」申請状況

貸付資金種類	件数（前年度比）	決定金額（前年度比）
緊急小口資金	3件(前年度比：-23件)	500,000円（-4,150,000円）

総合支援資金(初回)	4件(前年度比:-21件)	1,800,000円(-11,410,000円)
総合支援資金(延長貸付)	0件(前年度比:-5件)	0円(-3,000,000円)
総合支援資金(再貸付)	0件(前年度比:-14件)	0円(-8,100,000円)
計	7件(前年度比:-63件)	2,300,000円(-26,660,000円)

新型コロナウイルス感染の影響による収入の減少、休業、失業された方向けに「緊急小口資金」「総合支援資金」の特例貸付が令和2年3月より一斉にスタートしてから丸3年経過し、令和4年9月末日をもって申請受付を終了。

令和5年1月より、それぞれの貸付種類と貸付時期に応じて順次償還が始まっている。

・生活福祉資金調査委員会・福祉サービス利用料負担軽減審査委員会

第1回 開催日：8月26日 書面報告 8名/8名中

第2回 開催日：1月30日 えい坊館にて 7名/8名中

第3回 開催日：3月30日 えい坊館にて 7名/8名中

・生活福祉資金の広報活動 当会ホームページ及び広報誌にて周知

5. 福祉サービス利用料負担金軽減実施事業

低所得者を対象に利用負担金の補助を行う（1か月限度額10,000円）。

利用者：7名（前年度比+3名）助成金額：172,880円（前年度比：+32,670円）

6. 成年後見サポート事業

成年後見制度の説明、対象者の相談や成年後見制度の利用に結び付けるために地域包括支援センターとの連携により支援を行う。

当センターの在り方については検討中ではあるが、本人申立の支援（令和4年度：1件）をした。

令和4年6月に開設された7市町村からの共同委託で実施している「ふくい嶺北成年後見センター」に権利擁護に関する相談や申立ての支援などの連携協力をお願いしている。

福井県成年後見制度利用促進ネットワーク会議に参加し、各市町の現状等を把握し、今後の支援に活かしている。

在宅福祉サービス事業

1. 在宅福祉サービス事業

1) 在宅福祉サービス事業重点事業 評価

①「社協」の介護保険事業における事業精査

【評価】：当会運営の介護保険事業の経営分析及び、今後の見通しを精査し、結果的に「小規模多機能型居宅介護事業所の休止」及び「上志比デイサービスセンター運営の一部縮小」という経営判断に至った。今後も社協が運営する介護保険事業所としての適正なサービスの提供を前提とし、事業精査を継続し、中長期的な事業展開を定めていきたい。

②介護分野における規制緩和・事務簡素化に向けた検討

【評価】：今期より、勤務表作成ソフト（デイ）の導入等、ハード面の整備をおこなったが、その効果については充分とは言い難く、今後も効率的運用検討を深めていく必要がある。

③災害時（感染症・自然災害）における対応・体制強化

【評価】：今期は職員の実践力が身についた年度となった。新型コロナウイルスが5類移行後も、高齢者施設等には重症化リスクを有する高齢者が多いことを踏まえた対応が引き続き求められ、適切な対応、対策を継続する。又、他感染症や自然災害等の対応についても次期策定を見据える事業継続計画にて整備していく。

④介護職員を対象とした「介護職員等処遇改善支援補助金」を新規申請し、継続受給予定の介護職員処遇改善手当等を併せた職員の処遇改善を図る。

【評価】：R4年度介護報酬改定より、ベースアップ等支援加算を新規申請。（10月より）引き続き職員の処遇改善に努めるとともに、職員のモチベーション向上に向け、本加算の理解促進に努めていきたい。

高齢者生活支援事業

2. 配食サービス事業
3. 寝具洗濯サービス事業
4. 外出支援サービス事業
5. 家族介護(交流)教室事業

事業名	実績	
配食サービス事業	松岡地区：62名（5,279食） 永平寺地区：24名（1,508食） 上志比地区：21名（1,947食）	※前年比 松岡地区：-1,139食 永平寺地区：+15食 上志比地区：-439食
寝具洗濯サービス事業	一人暮らし高齢者：計56名 要介護3以上高齢者：計29名	※前年比 一人暮らし高齢者：-57名 要介護3以上高齢者：+6名 (一人暮らし高齢者対象事業の実施時期を4年度より変更)
外出支援サービス事業	延べ利用件数：5,446件	前年比：+151件

家族介護（交流）教室事業	10月：マッサージ師施術、参加者5名
	11月：寄せ植え教室、参加者14名
	2月：終活教室、参加者15名

介護保険事業・障害福祉事業

6. ホームヘルプ事業

7. 介護保険対象外ホームヘルプ事業

	実利用者数 (前年比)	累計訪問回数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)
ホームヘルプ事業	729名 (-2名)	8,279回 (-113回)	34名 (+7名)
介護保険対象外	87名 (+5名)	110回 (+2回)	—

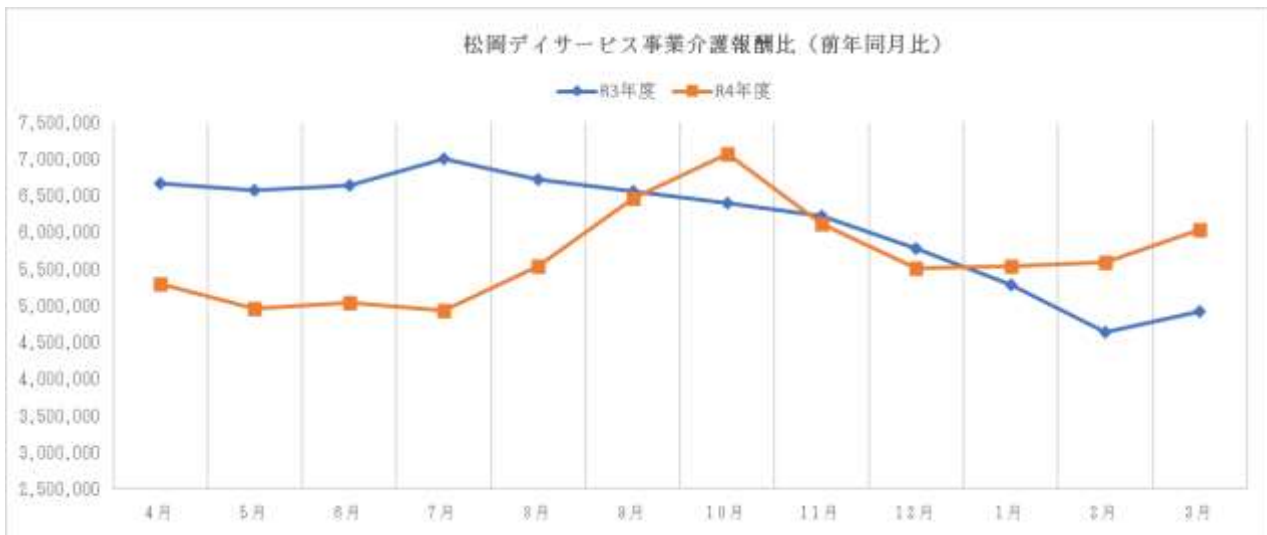


<評価>

・訪問系も新型コロナウイルス感染症の影響による、訪問自粛、利用控え等、影響を受けたが、中でも、防護服等感染対策を徹底の上での訪問継続ができた。前年比（介護保険）で利用人数・訪問回数ともに減少したが、他事業所のコロナ発生による利用者受入れ、サービス提供内容も身体介助が増加していることから報酬は増額となっている。

8. 松岡デイサービス事業

事業所名	延べ利用者数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)	稼働率平均 (前年比)
松岡デイサービスセンター (定員：45名)	6,932名 (-813名)	31名 (+17名)	50.8% (▲4.5)



<評価>

- ・利用者への接遇向上
→まずは自分たちの「言葉」や「態度」を変えてみる→職員の「心持ち」が変わる→利用者の満足へ
→松岡デイサービスを選んでくださったという感謝の念と、人生の大先輩を敬う気持ちの醸成
- ・新入職員3名ならびに若手職員育成への取り組み
→安心して一定の業務を任せられるようになってきた
- ・利用者満足につながる特色があつて独自性のあるサービスの浸透
→あん摩マッサージ指圧師による施術はとても好評である

9. 永平寺デイサービス事業

事業所名	延べ利用者数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)	稼働率平均 (前年比)
永平寺デイサービスセンター (定員：40名)	6,600名 (-497名)	28名 (+9名)	54.2% (▲3.5)



<評価>

- ・レクリエーションの充実

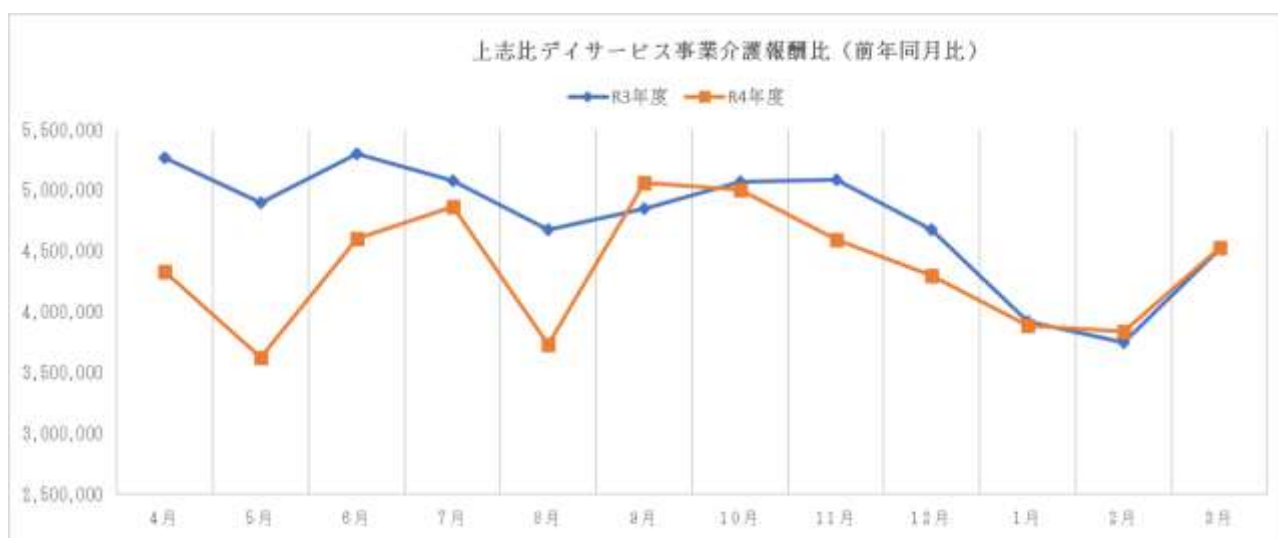
→コロナ禍により外出行事が制限されるなか、取引業者が毎月実施する「オンライン旅行ツアー」に毎月参加、特色あるイベント作りに注力した。

- ・イベント食の定期実施

→当センターのウリの一つである「ランチバイキング」を毎月実施。趣向を凝らした報告チラシを作成し、介護者様への見える化もおこなった。

10. 上志比デイサービス事業

事業所名	延べ利用者数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)	稼働率平均 (前年比)
上志比デイサービスセンター (定員：35名)	5,578名 (-843人)	22名 (+9名)	52.6% (▲1.7)



<評価>

○新規利用者獲得への営業努力

→他事業所の居宅事務所への訪問回数を増やし、営業活動に努めた。さらに町外へも目を向け、積極的に町外事業所へも当センターのPRへ出向き、より近い関係性構築に努めた。

また、当センターの雰囲気を感じてもらいやすいよう、紹介動画を作成、当会ホームページに掲載しており、新たなPR方法の展開にも注力した。

- ・半期ごとの稼働率比

事業所名	R2		R3		R4	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
松岡デイ	63.8% ▲1.9ポイント	61.9%	60.0% ▲9.1ポイント	50.9%	48.4% ▲4.8ポイント	53.2%
永平寺デイ	75.3% ▲4.5ポイント	70.8%	62.3% ▲10.1ポイント	52.2%	56.2% ▲4.1ポイント	52.1%
上志比デイ	75.3% ▲6.6ポイント	68.7%	63.0% ▲3.9ポイント	59.1%	54.3% ▲1.8ポイント	52.5%

1 1. 小規模多機能型居宅介護事業

延べ利用者数 (前年比)	(内訳)：通所 (前年比)	(内訳)：泊り (前年比)	(内訳)：訪問 (前年比)	新規 (前年比)	登録者数 (前年比)
2,387名 (-888名)	1,809名 (-881名)	17人 (+9名)	561人 (-16名)	3名 (+2名)	16名 (+3名)



<評価>

○平成23年4月から運営してきたが、当会介護保険事業所の運営見直しの結果、令和5年3月31日をもって「休止」となる。ご利用者様には、引き続き介護サービス利用生活が円滑に継続されるよう支援をおこなった。又、本件についての経緯、今後の対応についての説明会を12月に実施。

1 2. えいへいじ訪問入浴介護事業

○新規利用者数：1名（4月1回のみ利用）

1 3. 障害者計画相談事業

1 4. 自立支援居宅介護事業

1 5. 松岡自立支援生活介護事業

1 6. 永平寺自立支援生活介護事業

1 7. 自立支援訪問入浴介護事業

事業名	延べ利用人数 (前年比)	延べ訪問回数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)
計画相談支援	57名 (-17名) ※契約利用人数	—	18名 (±0)
障害児相談支援	42名 (-10名) ※契約利用人数	—	15名 (+1)
自立支援居宅介護事業	245名 (+8名)	1,935回 (+211回)	2名 (+2)
松岡自立支援生活介護事業	99名 (-113名)	—	0名 (±0)
永平寺自立支援生活介護事業	246名 (+140名)	—	1名 (+1)
自立支援訪問入浴介護事業	35名 (-1名)	271回 (-14回)	0名 (±0)

<評価>

- ・自立支援居宅介護事業：日曜日営業を廃止（R4.4月～）
- ・障害者計画相談事業：町内事業所に42名のケース移管を行ったため、契約者数自体は減少。一方で、新規利用者数は前年度同水準となり、今後も増加傾向が見込まれる。

専門性の向上・「令和4年度福井県強度行動障害者支援者養成研修（基礎・実践）」1名受講

- ・「令和4年度福井県医療的ケア児等コーディネーター養成研修」1名受講
- ・「令和4年度 福井県精神保健福祉従事者研修会（現任）」2名受講

→ 上記3つの研修受講による、体制加算の充実を図った

- ・公認心理師、精神保健福祉士、それぞれ1名ずつ資格取得

18. えいへいじ居宅介護支援事業

ケアプラン作成件数 (前年比)	予防プラン作成件数 (前年比)	要介護認定調査件数 (前年比)	新規利用者数 (前年比)
2,891件 (-314件)	505件 (+200件)	246件 (+7件)	66名 (-21名)

<評価>

ケアプラン作成件数は大幅減となった。一方予防プラン作成件数は増加しており、元気高齢者の増加が一因と捉えている。ここ近年予防プランは年々増加傾向にある。今後も適正なサービスが提供できるプランニングをしていく。

施設管理運営事業

19. 老人福祉センター運営事業

○新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した運営。

開所日数	242日 (前年比+19日)
延べ利用者数	3,187名 (前年比-175名)

地域包括支援事業

1. 包括的支援事業

1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワーク構築業務

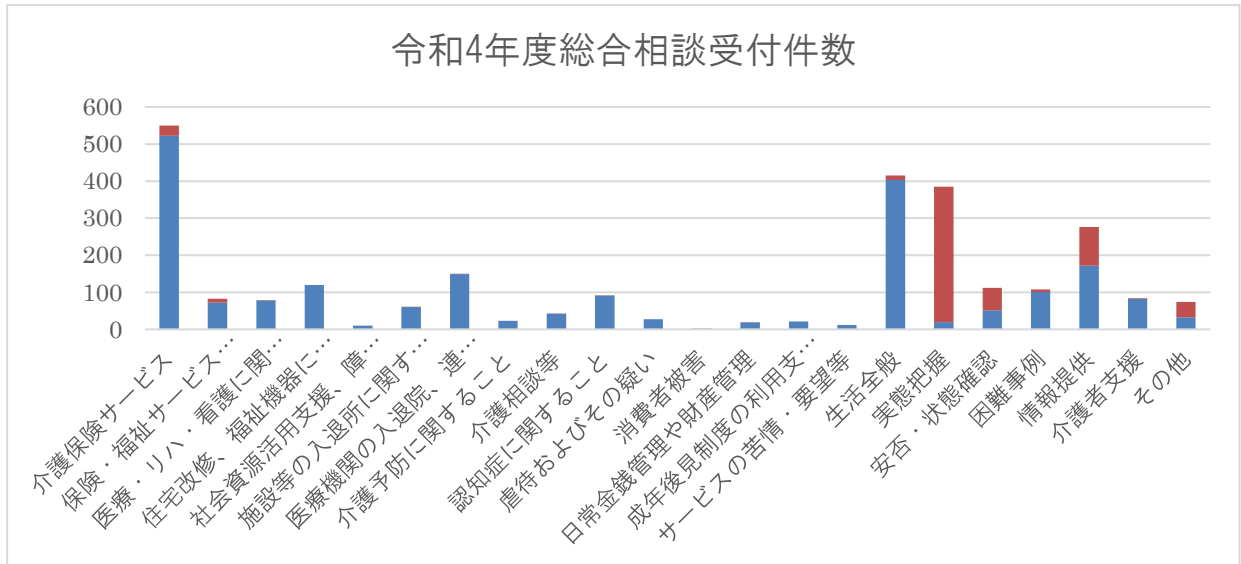
- ・地域ケア会議（個別ケース）開催状況 1回
- ・地域ケア会議（自立支援ケア会議）開催状況 10回

② 実態把握業務 在宅介護支援センターと連携 362件（令和3年度実績：366件）

③ 総合相談業務（延べ件数）

内 容	地域包括支援センター	在宅介護支援センター	計
R3年度相談件数	1413	632	2045
R4年度相談件数	1244	624	1868

④ 総合相談窓口としての周知 町の広報誌や社協の発行する広報誌やHPの活用。



2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進

年度	実人数	延べ相談・対応件数
R3年度	9人	25件
R4年度	11人	21件

② 老人福祉施設等への措置の支援 0名

③ 高齢者虐待への対応

年度	実人数	延べ相談・対応件数
R3年度	9人	45件
R4年度	8人	27件

④ 困難事例への対応

年度	実人数	延べ相談・対応件数
R3年度	10人	104件
R4年度	20人	107件

困難事例内容

対象者	疾患	内容	関係者・期間等との連携	経過
女性	長男嫁の精神疾患	4人世帯。長男の嫁が経済困窮のため本人の年金の搾取。また本人に必要な医療に受診できない。心理的に妻は本人を認知症であるといい施設入所に追い遣ろうと介護保険の申請を行う始末。別住居に避難する。	本人の長女・兄、地域福祉推進課	継続中
男性	精神疾患	1人世帯。金銭管理ができず生活困窮。職を転々としており定職につけないため就労支援を行う。光熱費が支払えず止められる。また税金等の滞納があるが本人での対応ができない。	県健康福祉センター（就労支援）、地域福祉推進課（日常生活自立支援）	継続中
女性	認知症	4人世帯。長男・長女の収入なく生活困窮する。認知症のため一人での生活は難しい。必要なサービスを利用することが出来ない。長女の息子も介護をする。ヤングケアラーの疑い。	担当ケアマネ（施設入所）、地域福祉推進課（子供みまもり支援）	継続中
男性	閉じこもり	一人世帯。閉じこもりがち。同居の母親が亡くなり無気力となる。民生委員が何回も訪問し体調面を気遣うが本人は行動しない。食事の摂取は不明。環境は掃除をせず不衛生。必要な医療受診をしない。	民生委員、病院、在宅介護支援センター（見守り）、社協（配食サービス）	死去

男性		精神疾患	2人世帯。夫の被害妄想による近所トラブル。子どもが町内外に3人いるが本人を前にすると幼少期のトラウマで萎縮してしまうため関わろうとしない。そのため妻だけでの対応となる。本人は医師への受診を拒否している。	妻、駐在所（見守り、通報対応）	継続中
----	--	------	---	-----------------	-----

⑤ 介護者支援に関する相談（新項目）

年度	実人数	延べ相談・対応件数
R4年度	25人	68件

3) 包括的継続的ケアマネジメント事業

① ケアマネに対する支援

- ・ケアマネ連絡会の開催 12回（隔月でZoom開催）
- ・ケアマネ個人相談 相談件数(延べ) 18件
- ・研修会 2回（6/17：Zoom、11/17：対面）

② 地域密着型サービス事業所との連携

- ・地域密着型サービス事業所の運営推進会議に参画 5事業所延べ25回出席

2. 在宅医療・介護連携推進に関する業務

1) 関係機関との連携体制構築支援

開催日	内 容	参加者数、概要
R4/10/21	テーマ：ショートステイ利用の事例から多職種連携を考える ○事例提供者 永平寺町立在宅訪問診療所 医師：此下氏	32名（12事業所） 医師、看護師、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、介護福祉施設、地域包括支援センター

R5/3/16	<p>テーマ：多職種による見える事例検討会</p> <p>○ファシリテーター</p> <p>嶺北認知症疾患医療センター 看護師：安江恭代氏</p> <p>みどりの森居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員：池田かおる氏</p> <p>○助言者</p> <p>嶋田医院 嶋田明彦氏</p> <p>○事例提供者</p> <p>ケアふくい居宅介護支援センター 主任介護支援専門員：田端弥生氏</p>	<p>16名（14事業所）</p> <p>町内医師、薬剤師、訪問看護師、居宅介護事業所、小規模多機能居宅介護施設、認知症対応型通所介護、訪問介護、通所介護事業所、相談支援事業所、地域包括支援センター</p>
---------	---	---

2) 住民への在宅ケア普及啓発活動

日時	場所	参加人数	内容
R5/3/11	永平寺開発センター	44名	<p>テーマ：「自宅で最期を迎えるという選択肢」</p> <p>講師：永平寺町立在宅訪問診療所 医師 久野哲弥氏</p>

3) 地域の医療・介護の資源リストの情報更新

完成したリスト集を4月に配布。（町内49事業所）

4) 永平寺町立在宅訪問診療所運営協議会への出席

3. 生活支援体制整備事業

中学校圏域に生活支援コーディネーターを配置

地域福祉推進課・地域福祉活動コーディネーターとの連携・情報共有を図る。

9/1 吉野地区健康マージャンの会の発足

- ・社会資源、福祉課題の周知、把握並びにすでにある協議の場への参画
- ・町内ふれあいサロンへの参加

4. 認知症総合支援事業

1) 認知症の方や家族を見守り支援の体制整備事業。

開催日	団体・グループ名	受講者数
4/7	福井大学病院	100名
5/31	志比南小学校4年生	14名
6/16	福井銀行・福邦銀行	20名
9/1	福井銀行・福邦銀行座談会	7名
	計	134名

2) 認知症地域支援・ケア向上推進事業

認知症の方や家族を見守りできる支援体制に向けて事業を取組む。

- ① 認知症カフェの企画・運営支援 2か所（「茶ま」、「えきなかカフェ」）
- ② 永平寺町認知症ケアパスの活用。簡易版は町内医療機関などの窓口に設置。

3) 徘徊高齢者などへの対策強化

徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事前登録・・・12件（令和5年3月15日現在）

4) 町内キャラバン・メイト活動支援

キャラバンメイト有志の会（仮称）定例会への出席し活動支援を行う。

開催日	内容	参加者数
4/22	人形を使い何かを作ろう	4名
6/30	今後の方向性について	6名
7/13	人形劇後の次の項目について	5名
8/23	クイズの内容について	4名

※R5/3/9（木）永平寺老人福祉センターにて初回講演開催
（キャラバンメイト4名と人形劇の協力者が参加）

5. 介護予防支援事業

1) 介護給付による介護予防支援

	R3年度	R4年度
介護予防ケアプランの作成数	1,246件	1485件
うち委託数※処理等未納分	611件	776件
委託率	49.0%	52.3%

2) 総合事業による介護予防ケアマネジメント

	R3年度	R4年度
介護予防ケアプランの作成数	748件	758件
うち委託数※処理等未納分	341件	421件
委託率	45.6%	55.5%

6. 一般介護予防事業

すべての高齢者を対象に、介護になる前の段階から予防を行い、日常生活の向上や社会活動への参加、生きがいをづくりを目的に実施。

1) 介護予防教室の開催

① 筋力トレーニング（ぞくぞく教室6教室・（もりもり教室））

	R3年度	R4年度
参加者数実数	52人（0人）	50人（5人）
参加延べ人数	1,429人（0人）	1,508人（47人）
延回数	226回（0回）	270回（12回）

（もりもり教室）約2か月週2日計12回、ぞくぞく教室入門編

・新型コロナ感染状況によりR2年、3年度は中止していたが、R4年度は再開。

	R3年度	R4年度
参加者数実数	0人	5人
参加延べ人数	0人	51人
延回数	0回	12回

② こっこつ教室 2会場（翠荘・ざおう荘）

	R3年度	R4年度
参加者実数	48人	45人
参加延べ人数	903人	1,113人

③ 筋トレ教室 4会場（やすらぎの郷、永平寺開発センター、永寿苑、ふるさと学習館）

元気高齢者を対象にした、筋力アップにつながる運動教室を実施。

	R3年度	R4年度
回数	137回	164回
実数	91人	101人
延べ人数	1,374人	2,222人

※ケーブルテレビ放映を継続中「いきいき百歳体操」「音楽で体操」「TV体操」

令和3年7月に「音楽で体操」と「TV体操」の内容を更新し、令和4年12月に「音楽で体操」2度目の内容を更新を行う。

2) 地域サロン事業等での介護予防出前講座

開催日	団体名	内 容
7/4	芝原3☆いい座あ〜サロン	介護サービスの話

3) 地域づくりによる住民主体のいきいき百歳体操の普及 22 か所

4) 地域介護予防活動支援事業

① フレイルサポーター研修

開催日	内 容	サポーター参加者
R4/5/23	永平寺町フレイルサポーターステップアップ研修会	4名
6/9	ふくいフレイルコミッティー (Zoom)	4名
R5/3/3	ふくいフレイルコミッティー (Zoom)	3名

② フレイルチェック 17 会場で実施

③ フレイルサポーター養成講座

開催日	会 場	参加者
9/12	上志比保健センター	11名

④ フレイルサポーター交流会

開催日	会 場	参加者
R4/9/12	上志比保健センター	16名
R5/2/21	開発センター	10名

7. その他

① 地域包括支援センターと他部門との連携

福祉保健課・在宅支援センターとの連絡会 毎月 1 回定例で開催

② 福祉、医療人材育成への協力

福井大学(医学部医学科、看護学科)、福井県立大学(看護福祉学部)、金城大学(社会福祉学科)の実習受け入れを行い、後進育成への協力に取り組んだ。

③ 職員の資質向上

研修への参加 23 回 (うち対面研修 6 回)

在宅介護支援センター事業

1) 高齢者の安否確認、実態把握及び相談対応

年度	安否確認	実態把握	相談対応
R3 年度	1,232 件	366 件	632 件
R4 年度	1,009 件	362 件	624 件

- 2) 地域包括支援センターのランチとして、地域包括支援センターと連携して支援にあたった。
- 3) 高齢者の実態調査や初期の相談対応業務や緊急時の対応がスムーズにできるよう実態把握を行った。
- 4) 月1回定例開催される地域包括支援センターとの連絡会、福祉保健課との連絡会に出席し、情報共有等しながら連携を図った。
- 5) ひとり暮らしや高齢世帯で心配な方を中心に電話での安否確認も積極的に行った。また、気になる方について、民生委員の方と協力し見守り訪問を行った。
民生委員の方との連携を図ることができ実態把握にもつなげることができた。
- 6) 災害時、緊急時に備えて安心カードの記入を促した。
- 7) 実態把握時に不審な電話や訪問の聞き取りを行うとともに注意喚起を行った。

基金運営事業

1) 福祉基金事業

社会福祉事業の推進にあたり、必要とする費用の財源対策として積み立てる基金
今年度は、事業運営に必要な財源の確保のため、福祉基金の取り崩しを行った。

◆取崩し額：50,000,000円

◆積立額：1,555,000円

2) 地域福祉事業安定化基金事業

住民の福祉需要に対応し、地域福祉事業の安定的な発展を図るため積み立てる基金

3) 介護保険事業安定化基金事業

介護保険事業運営に必要な財源の安定的確保を図るために積み立てる基金

4) 施設管理運営安定化基金事業

自ら保有する施設の維持管理及び適正な運営に必要な財源の安定的確保を図る目的で積み立てる基金

◆積立額：1,000,000円